

## 研究テーマ 特定高齢者における歩行改善教室がその後の介護認定に及ぼす影響

病 院 名 医療法人社団健育会 熱川温泉病院

演 者 ○<sup>えのもと のりこ</sup>榎本典子(理学療法士) 藤井一郎(理学療法士) 大塩香織(理学療法士)  
井上紗希(理学療法士) 横山雅之(理学療法士)

### 概 要

#### 【研究背景】

当院では自治体の要請を受けて、特定高齢者を対象に週1回3ヶ月間で計12回の歩行改善教室を実施し、運動機能向上を報告している。しかしその後の参加者の経過は不明で、現在の介護認定の有無も明らかとなっていない。

#### 【研究目的】

今回の研究では、歩行改善教室の参加者に対してアンケート調査を行い、歩行改善教室後の運動機能が介護認定の有無にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることを目的とした。

#### 【研究方法】

対象は2020年～2022年に実施した歩行改善教室の参加者である41名の内、電話によるアンケートが可能であった32名(女性28名男性4名)とした。運動機能の評価は歩行改善教室終了時点での5m歩行時間、TUG、片脚立位時間、握力の測定値を使用した。アンケート調査の項目は現在の介護認定の有無、運動習慣の有無、転倒発生の有無とした。運動習慣の有無の判定基準は日常生活以外に、1週間の内合計1時間以上運動を行っている事とし、運動の内容は規定しなかった。介護認定の有無で対象を2群に分け、対応のないt検定、 $\chi^2$ 検定、マンホイットニー検定を使用し各項目の差を統計解析した。ソフトはR4.0.2を使用し有意水準を5%未満とした。尚、本研究は当院の倫理委員会の了承を得ており対象者には事前に研究主旨を説明し同意を得ている。

#### 【結果】

認定無群は25名(女性24名、男性1名)、認定有群は7名(女性4名、男性3名)であった。それぞれの平均年齢は82.0±5.3歳、85.2±3.2歳。身長147.9±6.2cm、154.9±9.9cm。体重54.5±9.3kg、62.4±10.7kg。5m歩行時間4.1±0.9秒、4.8±1.7秒。TUG9.8±3.1秒、12.4±2.8秒。片脚立位時間14.0±18.1秒、4.8±1.7秒。握力20.7±3.8kgf、23.2±6.6kgf。性別、身長、TUGに有意差を認めた。(p<0.05)運動習慣有は認定無群は17名、認定有群5名であり、転倒が発生したのは認定無群は5名、認定有群3名であった。

#### 【考察】

今回の研究では、男性が認定される割合が多く、身長に有意差を認めたと考えられる。先行研究では男性高齢者は女性高齢者と比べて団体、会への参加や友人、知人との交流が少ないと言われており、社会参加が難しい。又、参加者選定時点で男女比に偏りがあり性別に有意差を認めたと考える。TUGに関しては、実際の日常生活場面に近い条件下の平衡性の評価指標と言われている。動的バランス能力は歩行や日常生活動作自立に関連し高い方が介護予防に繋がると考える。

#### 【結論】

特定高齢者に対しての介護予防に関しては、男性の社会参加を促し、運動機能低下の方を早期に察知する必要がある。又、日常生活場面に則した動的バランス運動を多く入れ、効果的な介護予防を提供する必要があると考える。